爆走坂東組日記 2006

おう、10月は秋晴れの続くいい気候だったな。秋の夜長は考えごとにはもってこいだ。オレは今、来季の活動のことを思案しなきゃいけねぇ時期にきてるし、今年の残り2戦でどうやって優勝してやろうかって、一生懸命アタマを捻らなきゃならなかったんだが、こういい天気が続くと頭もハッキリしてくる。ま、今回はそんなふうにアタマを捻った末のオートポリスの話でも聞いてくれや。

今年は金曜日に雨が降ることが多かったんだが、オートポリスは幸い好天だった。だから、まずはタイヤチョイスから始めて、本番のコンスタントタイムがどのぐらいで落ち着くかっていうことまで金曜の段階で確かめられた。結果はまずまず。ただし、お立ち台を狙えるほどの仕上がりだったかと言うと、それは厳しいってことも分かってたんだ。であれば、優勝を狙うのは、おのずと最終戦の富士っていうことになってくる。だからといって、オートポリスでもただ走ればいいやってことじゃなく、何とかスーパーラップに出たいとは思っていたし、当然入賞は狙っていたんだよな。

ところが予選では思わぬトラブルに見舞われた。ちょうどシゲがアタックに入ろうかっていうところで、パワステに不具合が出て、「ハンドルが重くて走れません」っていう状態になっちまったんだ。シゲは体力があるから、それでも何とかなるかなと思ったけど、さすがに何ともならなかったね。だから、ピットに呼び戻して修復作業に入ったんだけど、それに時間を取られて、予選1回目はその後走れなかった。おかげでスーパーラップどころか最後尾からのスタートになっちまったんだ。

決勝のグリッドについた時、オレたちの後ろには、FRO（ファースト・レスキュー・オペレーション）のクルマに乗る星野薫しかいなかった。いつもならグリッドで周りのエントラントと色々話をするんだが、今回の話し相手はエントラントじゃなかった……。で、反対側を見たら、オレたちのすぐ前にいたのがハンコックポルシェに乗ってる木下みつひろ。ヤツに「お前らのコンスタントラップは何秒ぐらいなんだ？」と尋ねたら、「1分56～57秒台です」って言うんだよな。金曜日の感触で、こっちはそれよりは全然速いペースで走れることが分かっていたから、オレは言ったんだよ。「お前のブロックはキツいけど、そんなペースで走るんだったら、あんまりしょっぱいブロックはしねぇで、すぐに前を開けろよ。大体あんな汚いブロック、どこで憶えてきやがったんだよ？」って。そしたら、木下は「レーシングプロジェクト・バンドウで憶えました」だってよ。オレ、そんなこと教えたっけ？　って思ったんだけど、確かに昔教えたような気がするな……。

しかも、いざレースがスタートすると、まんまとそのブロックのワナにハメられちまったんだよ。こっちは1分53～54秒のペースで走れるのに、57秒台のペースに付き合わされて、1周あたり4秒ぐらいずつのロス。そこからやっと抜け出したのがスタートしてからだいたい20周っていうところだった。それじゃあ、もう入賞するのも難しいよな。その後、28周を終えたところでピットに入れて、後半のシゲに交代した。コースに戻ったシゲは55秒台で淡々と追い上げを図って、ポジションとしては13～14番手ぐらいまで上がっていった。でもその後、ストレートが速いランボルギーニ勢に引っかかっちまって、そこからは前にいくのが難しかったんだよな。そんなワケでポイントを逃しちまったんだが、オレとしてはもう少し上手くやれば、あのレースでも入賞できたんじゃないかとは思ってるんだ。ピット作業やマシンのセットアップに関しても、まだまだ富士に向けて詰められる部分はあると思う。とにかく最終戦を迎えるまでには、ミーティングでその辺を話し合って良くしていきたいね。まぁ最終戦をよく見てくれや。R

Vol.6

トラブルに泣いた富士の前哨戦

予選最後尾から追い上げを図るウェッズスポーツセリカ。9台抜きを果たして12位でチェッカーを受けた。

GT300 Race Report ROUND 8

トラブルによる最後尾スタートも9台抜きの12位でゴール

ランキング13位（ドライバーズ／チームは12位）で迎えた第8戦オートポリス。午前中に行なわれた1回目の予選で、ウェッズスポーツレーシングチームwithバンドウが走らせるウェッズスポーツセリカのパワーステアリングにトラブルが発生。11周を走ったのみで、1回目の予選を終えてしまう。これにより、スーパーラップにも進出ならず、翌日の決勝では最後尾スタートとなってしまった。

10月も中旬というのに夏日となった好天のもと、14時に決勝レースがスタート。ウェッズスポーツは松田晃司が第1スティントを担当するものの、レース序盤は本文にもあるとおり、ハンコックエンドレスポルシェに行く手を阻まれる。しかし、20周目についにハンコックポルシェを捉えると、その後は徐々にポジションを上げ、ピットインまでのあいだに14番手にまで浮上した。そのピットストップでは後半を担当する脇阪薫一にドライバー交代し、再び18番手からの追い上げを図る。そして36周目までに14番手に回復するが、45周目にアクティオムルシェRG-1に先行を許し、再び逆転のチャンスを狙うが反撃もそこまで。結局、9台を抜いて12位でレースを終えた。

GT300 Race Result ROUND 8

Rd 8　10月15日　晴れ／ドライ　オートポリス
4.674km×65周＝303.81km　参加36台・出走36台・完走35台

順位	No.	ドライバー	マシン	タイヤ	周回数	ベストタイム	予選／タイム
1	2	高橋一穂／加藤寛規	プリヴェチューリッヒ・紫電	YH	61	1'52"254	1/1'49"941
2	7	山野哲也／井入宏之	雨宮アスパラドリンクRX7	YH	61	1'53"073	3/1'51"026
3	55	光貞秀俊／池田大祐	DHG ADVAN FORD GT	YH	60	1'53"444	11/1'51"659
4	110	松田秀士／菅 一臬	TOTALBENEFIT GREENTEC BOXSTER	YH	60	1'54"379	14/1'52"209
5	777	田中 実／大鳴和也	梁山泊 apr MR-S	MI	60	1'54"296	5/1'51"342
12	19	松田晃司／脇阪薫一	ウェッズスポーツセリカ	YH	60	1'54"289	21/1'53"713

・ベストラップ：No.2　プリヴェチューリッヒ・紫電　加藤寛規　1'52"254　2/61　149.896km/h